

学内向け試験費用

| 試験名称 | 試験概要 | 装置スペック | 機器使用料 | 備考 |
|-------------------------|---|---|--|---|
| 振動試験 | ロケット打ち上げの際の振動に耐えられることを検証する | センサーは24chまで 25ch以上は要相談 | 15,000円/日 | 消耗品費用(実費)を別途徴収※1 |
| 衝撃試験 | ロケットから切り離す際の分離衝撃に耐えられることを検証する | 10cm級、50cm級の衝撃試験 | 20,000円/日 | 消耗品費用(実費)を別途徴収※1 |
| 熱真空試験(大) | 軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する | シュラウド内径1.5m、到達圧力 1.0×10^{-5} Pa、液体窒素シュラウド付き | 12,000円/日 | 消耗品費用(実費)を別途徴収※1 |
| 熱真空試験(小) | 軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する | 試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm、到達圧力 1.0×10^{-5} Pa、液体窒素シュラウド付き | 12,000円/日 | 消耗品費用(実費)を別途徴収※1 |
| 熱平衡試験(大) | 衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう | シュラウド内径1.5m、到達圧力 1.0×10^{-5} Pa、液体窒素シュラウド付き | 12,000円/日 | 消耗品費用(実費)を別途徴収※1 |
| 熱平衡試験(小) | 衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう | 試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm、圧力 1.0×10^{-5} Pa、液体窒素シュラウド付き | 12,000円/日 | 消耗品費用(実費)を別途徴収※1 |
| 熱サイクル試験(大) | 衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験 | -190°Cから200°Cまで試験可能。温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能 | 12,000円/日 | 消耗品費用(実費)を別途徴収※1 |
| 熱サイクル試験(小) | 衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験 | -190°Cから200°Cまで試験可能。温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能 | 12,000円/日 | 消耗品費用(実費)を別途徴収※1 |
| 真空中機能試験 | 衛星に使用する部品、素子等の真空環境下で動作することを検証する | 到達圧力 5.0×10^{-5} Pa | 5,000円/日 | 消耗品費用(実費)を別途徴収※1 |
| 加圧コンポーネント 圧力試験・リーク試験 | 圧力容器等が要求通りの耐圧とリークレートをもつことを検証する | 試験可能サイズ:15cmx15cmx15cm 真空容器背圧:1Pa | 10,000円/日 | 消耗品費用(実費)を別途徴収※1 |
| アウトガス試験 | ASTM E-595に準拠したアウトガス測定を実施する | ASTM E-595に準拠 | 100,000円/回 | 消耗品費用は機器使用料に含む 1回につき6検体まで測定可 測定1回につき1週間 |
| 熱光学特性試験 | 太陽光吸収率および垂直放射率の測定 | 測定波長範囲 太陽光吸収率:0.25~2.5 μ m 垂直放射率:2.5~100 μ m | 12,000円/データ 1検体につき α を2回、 ϵ を2回測定の場合、 12,000 x 4=48,000円 | 消耗品費用及びオペレータ費用は機器使用料に含む イレギュラーなサンプルについては割増→相談要 納期:1か月以上 |
| 共同利用研究 | 各衛星試験設備の共同利用 | 超小型衛星試験センターの共同利用申請を行い、採択を得た研究に限り、センター保有試験装置を無料で使用出来ることとする。 | 基本的に無料※2 | 特殊な機材、消耗品等を使用する場合、相談の上、実費請求あり |

利用料金は予告なく改訂することがあります。

熱光学特性試験を除き、機器の操作を利用者が行なうことを前提とします。

※1:消耗品費用とは液体窒素、専用治具の作成、センサー類の追加分等を指します。

※2:特殊な機材、消耗品等を使用する場合は、予め共同利用申請を行う際に相談を行う事。